平成２６年度第１回大和市文化財保護審議会会議　会議録

会議名 （審議会等の名称）		平成２６年度第１回文化財保護審議会
開催日時		平成２６年７月３０日（水曜日）１４時～１６時
開催場所		大和市役所２階　教育委員会室
出席状況	委員	５人
	その他	０人
	事務局	文化スポーツ部長、文化振興課長、市史・文化財担当係長、他担当２名（計５人） 文化スポーツ部文化振興課市史・文化財担当　内線（５２２５）
	傍聴人数	０人
公開・非公開の状況		■公開　　□非公開　　□一部非公開
非公開・一部非公開の場合はその理由		
審議又は検討経過及び結果		**（１）会議次第** １、平成２５年度郷土民家園の指定管理業務の管理運営状況の評価について ２、平成２６年度文化財保護事業について ３、その他 **（２）審議及び結果** 主な内容は次のとおり **１、郷土民家園の指定管理業務の管理運営状況の評価について協議** ●評価 ・郷土民家園 ①施設の利用許可事務は、条例等に則り適切に行われている。また、施設の平等利用及びサービス向上に努めている。 ②郷土民家園の特色を生かした多様な事業のみならず、地域団体との連携による地元に根付いた事業展開や市内３館合同企画展による市内の文化財普及啓発活動にも取り組んでいる。しかし、来園者数については減少傾向にあるため、来園者の回復・増加に向けた取り組みが必要である。 ③設備点検や清掃等の施設管理が適切に実施されている。 ④施設の管理運営を安定的に行う上で十分な財務状況と判断している。また、学芸員を配置し、施設の管理を適切に行う体制を整えているが、配置学芸員の更なる能力向上のため、専門研修や他館園の見学・交流等の実施が必要である。 ●その他意見 ・平成 26 年 1 月より配布が開始された見学者向けワークシート（日本語版）について、現時点での配布実績を知りたい。また、平成 26 年 4 月より配布が開始された英語版について、ネイティブによる翻訳でない場合、正しく翻訳されないこともあるので注意が必要である。 ⇒日本語版ワークシートの配布実績（月平均）は、10～20 部程度である。英語版については、今後の配布状況や外国人利用者の反応等を確認していく。 ・来園者が減少傾向にあることについて、原因究明できているか。 ⇒泉の森全体の利用者数が減少していることによる影響が大きいと思われるが、詳しい原因は分かっていない。	

	・泉の森の利用者数のカウント方法はどのように行っているのか。 ⇒しらかしのいえ（カウンター集計）やキャンプ場（予約制）等の集計可能な施設の利用者数を把握し、民家園と比較検討している。 ・しらかしのいえの利用者数は、郷土民家園よりも多いと聞いている。自然系と人文系は博物館等の大きな二つの柱なので、しらかしのいえとの連携を増やした事業展開をすれば、利用者数のみならず、利用者の満足度やリピート率も上昇すると思うので、検討して欲しい。 ⇒しらかしのいえは環境農政部の管轄であるが、同じ財団が管理をしている泉の森内の施設であるので、連携した事業展開を進めていけるよう努めていく。 ・来園者の満足度をさらに上げるための取り組みとして、以前から言われていることではあるが、園内へのトイレの設置を改めて要望したい。また、古民家での暮らしをより感じてもらうために園内に畑を作り、作物の栽培や収穫の様子を見学・体験できるようにしてはどうか。特に最近の子供たちは、そういった機会が少ないと思うので、喜ばれると思う。 ⇒トイレの設置に関しては、浄化槽の設置費用や景観上の配慮等の課題があるが、来園者からの要望もあるため、財団と協議を重ねていきたい。また、畑は民家園の裏手にあるが、目立たない場所であるため来園者からは見えにくい。郷土民家園の敷地内に広げる余地はあると思われるので、検討したい。 ・4 月と 10 月には事業等が行われていないので、新たに企画してはどうか。どちらも出かけるには良い季節であるので、人を呼びやすいと思う。また、来園者数の年齢層が把握できれば、来園の少ない年齢層へのアプローチ方法を検討しやすい。 ・花の咲く植物は来園者に人気がある。ただ、たくさん咲いていないと見応えがないので、桜の本数を増やしたり、ヒマワリ等を新たに植えたりして季節ごとに楽しめるようにすると来園者が増えるかもしれない。 ・展示するだけでなく、実際に体験できる事業は人気がある。横浜市歴史博物館で蚊帳を吊るした展示（中に入ることができる）が人気だったと聞いた。若い世代には見慣れないものなので新鮮に感じたようだ。また、現在では掛軸を持っている家庭も少ないので、実際に巻いたり飾ったりする体験や自作の書を掛軸にするといった講座も人気が出るかもしれない。昔は当たり前にあったものでも、時代の変化によって新鮮に映るものもあるので、民家園でも取り入れてみると良いと思う。 ⇒蚊帳については、郷土民家園でも吊った状態で展示をしている。その他にも、昔の暮らしがどのようなものであったのかということを、より来園者の方に知っていただける新たな展示や事業を財団と検討していきたい。 **２、平成２５年度市史・文化財事業について説明** ●意見等 ・ふるさと館で実施された「つるしびなをつくろう」の参加者が 1 組となっているが、当初から 1 組の予定だったのか。 ⇒当初から 1 組のみであった。小中学生を対象に実施した事業であったが、同一日時にふるさと館近くの下鶴間コミセンでも子供向けの催しが行われてお

	り、そちらに人が流れてしまったことが要因の一つと考えられる。今後、事業を企画する際には、近隣自治会やコミセンの行事把握が必要である。 ・地域歴史資料整理・保存事業について、１年で何件程度の処理が終わるのか。また、現時点で処理が終了している件数はどのくらいか。 ⇒１件あたりの資料の量にはバラつきがあるが、１年につき１件程度である。まだ事業を始めて年数が浅いため、現時点で処理が終了しているのは１０件余りである。 ・県指定重要文化財である上野遺跡の出土品は、国指定になれる価値のある文化財だと思う。実際に文化庁に働きかけたことはあるか。 ⇒働きかけたことはないが、担当としても価値のある貴重な文化財だと思っているので、検討していきたい。国指定になるために必要な条件や方法等について県に相談する。 **３、その他** 特になし。